

セブン 7A

私たちのスローガンです

- A dolescent 思春期保健の推進
- A bortion 安全な人工妊娠中絶
- A ccess どこでも誰もがサービスを受けられる
- A dvocacy 啓発・提言活動
- A IDS STI及びHIV/エイズの予防
- A geing 高齢化社会対策
- A buse 児童虐待の防止

家族と健康

Reproductive Health

一般社団法人
JFPOA 日本家族計画協会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 http://www.jfpa.or.jp
発行人:北村 邦夫 編集人:三橋 裕行 毎月1回1日発行

本会家族計画研究センター 2019年度事業実績報告

1999年6月承認、9月発売となった低用量経口避妊薬(OC)。以来20年が経過している。この間、本会家族計画研究センターが開設してきたOC関連の電話相談も幾多の変貌を遂げている。2019年度をもって中止を余儀なくされた電話相談もある。20年間にわたって本会が開設してきたOC相談を中心に、19年度におけるセンターの活動をあらためて振り返ってみたい。(本会理事長・家族計画研究センター所長 北村邦夫)

わが国のOC相談を一手に引き受けて20年

OCが承認・発売された1999年には、一相性(フリニールM・シンフェーズM、オソム、マーベロン)、二相性(エリオット)、三相性(トライディオール・アリンジュ、トリキュラー、リビアン、ノリニールT・シンフェーズT、オソム777)など多数のブランドがあった。しかし、20年が経過する中、現在発売されているOCは後発品も加わって、一相性(マーベロン、フアボワール)と、三相性(アリンジュ、トリキュラー、シンフェーズ、ラベルフィュー)にすぎない。2008年以降、月経困難症の適用を有する低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬(LEP)が発売されているが、本会の電話相談は「避妊」を目的としたものに限定してきた。今日まで、OC発売企業の協力を得て「ピルダイヤル」(ヤンセン)、

「OCサポートコール」(ワイス)、「OCサポートコール」(日本シェリング/バイエル薬品)、「OCコール」(あすか製薬)、「OCヘルプデスク」(富士製薬工業)など、その時代

「OCサポートコール」から見えるわが国のOC事情

04年度(05年2月)にことになった。この15年スタートした「OCサポートコール」。最盛期には8千件に迫る相談件数を誇っていたものの、以降、減少の一途を辿り、19年度には661件となっている。

職業分類では、社会人が73.6%、主婦・家事が15.9%、大学生が15.9%、高校生が7.7%、その他・不明が4.9%となっている。

表1 本会が開設してきた「OC関連相談」の20年

年度	ピルダイヤル	ピルサポートデスク	OCサポートコール	OCコール	OCヘルプデスク
00年度	1,229				
01年度	1,247	377			
02年度	2,391	2,403			
03年度	2,034	2,540			
04年度	1,866	2,153	69		
05年度		2,123	2,075		
06年度		1,913	4,011		
07年度		1,724	5,076		
08年度		1,324	6,080		
09年度		1,127	6,424		
10年度			7,914	895	
11年度			7,678	641	
12年度			6,829	914	
13年度			5,330	718	
14年度			4,424	554	390
15年度			3,097	488	719
16年度			2,123	355	851
17年度			1,573	297	877
18年度			1,243	326	819
19年度			661	195	1,074
合計	8,767	15,684	64,607	5,383	4,730

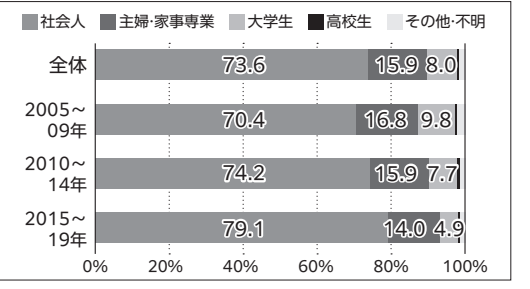


図1 「OCサポートコール」の15年間(相談者の職業分類)

が、年々社会人の割合が増加し、この5年間で約80%となっている。世界では、若い世代の避妊法としてOCが高評価されているが、経費が足か

表2 「OCサポートコール」の15年間(相談内容)

	全体	2005~09年	2010~14年	2015~19年
合計	64,607	22,182	32,697	9,728
服用方法	19.5	19.4	19.0	21.4
飲み忘れた場合の対処法	19.4	15.2	21.3	22.3
副作用	12.9	16.4	13.8	1.9
薬物相互作用	10.1	11.0	9.6	9.7
避妊効果	9.2	9.2	8.7	11.0
周期調節	9.1	7.8	9.7	10.2
ピル一般	5.7	5.7	5.8	5.3
副作用以外	3.2	4.0	2.3	4.5
服用手順	2.8	2.3	3.3	2.4
その他	8.1	8.8	6.6	11.3

世界で最も後の承認国となったわが国では、乳がんや血栓症などの副作用が承認の要因の一つであったこともあり、OC電話相談開設当初

せになっていくのか、産婦人科受診への躊躇があるのか、大学生の割合は減少傾向にあるだけなく、高校生の利用者はわずかである。15年間のまとめを年齢階級別に見ると、25~29歳が最多で25.0%、20~24歳と30~34歳が同率で20.1%。残念ながら20歳未満は3.1%にすぎなかった。電話相談利用者の住所地も聞いており、47都道府県全域だけでなく、少ないとはいえ海外からの相談もある。トップは東京都で28.4%、神奈川県10.6%、千葉県6.0%、埼玉県5.9%

「思春期・FP(家族計画)ホットライン」は女性からの相談が減少に

1988年に筆者が本会クリニックの所長に就任して以来、全ての電話相談票がデータベース化され今日に至っている。「思春期」を対象とした本会の電話相談は、わが国で先駆的な役割を果たしてきた。95年度には年間7千件を超える年もあったが、2019年度は1507件(男性1085件、女性422件)までに減少している。特に女性からの相談件数の減少が顕著となっているが、彼らはインターネットなどを駆使して悩みを解決しているのだろうか。職業別・相談内容をまとめた(2面の表3)。この職業分類は、例えば、母親が子どもの様子が気

する文化」のお陰で、私も幾度となく言葉の直撃を受けずに済んできた。一方で、我儘と思われたくないから黙っておこうという慎重さは命を守る場面ではタフさに欠けると最近強く感じる。幸い、主張「我儘」という呪縛が、アサーションという言葉の浸透と共に解き始めている。アサーションは、自己主張と他

は、「服用方法」と「副作用」が目立っていたが、20年の月日は、「副作用」を心配する声より「飲み忘れた場合の対処法」や「周期調節」への期待が高まっていることが分かる。

の一方で、減少傾向にあるのは「薬物相互作用」などが挙げられる。OCが単に避妊法としてだけでなく、「周期調節」な

天馬空

私とフランス人の友人はよくこんな会話をしている。「あなたはどしたの?」
「口論をしている訳ではない。主張をしたら、今度は主張を聞く。楽しい会話だ。にもかかわらず、言葉の通じる日本人相手にはこのような会話をしない自分がいる。余計なことと言わない。察

する文化」のお陰で、私も幾度となく言葉の直撃を受けずに済んできた。一方で、我儘と思われたくないから黙っておこうという慎重さは命を守る場面ではタフさに欠けると最近強く感じる。幸い、主張「我儘」という呪縛が、アサーションという言葉の浸透と共に解き始めている。アサーションは、自己主張と他

できるが、「今」で起きているあなたと私の問題をリアルタイムに解決する術にはならないのだ。上手な主張のコツは相手を見ることだ。う。ならば、私を含め、元来他者という見られるか。来他者にするタイプの人をアサーティブスキルを学ばば、案外達人になれる要素はたっぷりなのかもしれない。(斎藤由香)

広告

表3 「思春期・F Pホットライン2019年度」の職業別・相談内容

Table with columns for gender (male/female), age group (all, elementary, middle, high school), profession (social worker, volunteer, etc.), and consultation topics (sexual violence, pregnancy, etc.).

表4 「東京都不妊・不育ホットライン2019年度」の5歳階級別・相談内容

Table showing consultation topics categorized by age groups (24-29, 30-34, 35-39, 40-44, 45-49, 50+).

も考えられるが、妊娠22週以降の胎内死亡や死産を繰り返す症例も含まれる。...

「東京都不妊・不育ホットライン」 不育相談が全体の23.9%

1997年から始まった「東京都不妊・不育ホットライン」と名称が変わっている。この間に...

「プレコンセプション・ヘルス・ケアを考える」 セミナーには1097名が参加

1999年から全国各地で開催している「指導者のための避妊と性感染症予防セミナー」...

「Dr.北村が推奨する緊急避妊薬・低用量ピル処方施設検索サイト」立ち上げ

計画していない妊娠に悩むカップルは少なくない。避妊しなかった、...

職域保健の現場から

日鉄ソリューションズ株式会社 人材開発部 健康管理グループ 畑中 優貴

治療と仕事の両立支援によって会社も社員も守る

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)

本連載では、職域保健の現場で活躍されている方にさまざまな取り組みを「寄稿」いただいています。今回は、社員が治療と仕事を両立することができ、安心して働けるよう支援する取り組みについて、日鉄ソリューションズ株式会社産業保健師の畑中優貴さんに紹介いただきます。(編集部)



https://www.jfpa-clinic.org/s 処方施設検索システムURL

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

「治療と仕事は両立できない!」!? 新卒だった当時、担当した病棟では、慢性疾患で退院・再入院を繰り返す「常連さん」が何人か...

OC/LEPP処方私が私の医師人生をどう変えたか③

OC/LEPPを積極的に処方する
医師はマイノリティー！だからこそその絆



きたのはら女性クリニック(宮城県仙台市) 北野原 正高

新型コロナウイルス感染症による大きな影響が及んでいる中、最善を尽くして診療に従事、また地域を支える活動をなさっている関係者の皆さまに心より敬意を表します。

私には、9年前の東日本大震災の状況と重なる思いです。当時は振り返りながらこの回を担当しています。

「熱」を帯び、興奮状態な分かります。……

OC/LEPPを通じての出会い

私の場合、開業をきっかけに低用量経口避妊薬(OC)を積極的に処方する努力を始めました

そんな中、東北地方の大先輩である蓮尾豊先生(OC)を積極的に処方

OC/LEPP小グループ勉強会

年に3回程度、東北支部の先生方を中心に仙台でOC/LEPPに関する小グループ勉強会を開催

OC/LEPPの絆

11年3月11日、東日本大震災。ビル最上階のクリニックの揺れは尋常でなく、建物が損壊、薬や物品も散乱。診療ができ

OC/LEPPユーザーの方から、通院が困難になり継続が難しいとの連絡が多くなったことか

新型コロナウイルス感染の危機

今、仙台でも繁華街のシャッターが閉まり、行き交う人の数が減っている現状を見て、震災の時を思い出してしまっています。

お知らせ

健やか親子21全国大会
(母子保健家族計画全国大会)

今年度は中止となります

本年11月に大阪府での開催が予定されていた本大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

「厚生労働大臣表彰」

「日本家族計画協会会長表彰」の本年度表彰、大会プログラムの一つとして、例年多くの方に参加



東北OC/LEPP小グループ勉強会

本にするよう心掛けることで、徐々に当院でのOCユーザー数が

3月から「避妊教育ネットワーク」の一員

OC/LEPPユーザーとはメールで連絡をと

OC/LEPPユーザー

OC/LEPPユーザー

OC/LEPPユーザー

OC/LEPPユーザー

広告